

1【令和6年度 山の下地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021～2026>

【目指す姿】年をとっても、障がいがあっても安心して暮らせるまちに！	
推進目標1:地域の問題解決のための会議を開催しよう ・民生委員・児童委員と自治会・町内会長が定期的に連携会議を実施し、情報交換を継続。 ・ゴミ出しや買い物支援、友愛訪問など、具体的な住民支援活動が実行され、地域の福祉向上に寄与している。 ・除雪や庭木伐採など小規模な日常課題に対する地域活動も進行中。 ・高齢者の孤立や情報不足への対応にさらなる工夫が必要。 ・支援活動を担う人材不足、特に若年層の関与不足が今後の課題。 ・行事の参加者が固定化しており、地域の一体感の向上が求められる。	推進目標2:顔の見える関係づくりをしよう ・まちづくりセンターのフリースペースは、子どもの学習場所や住民の打ち合わせスペースとして効果的に利用されている。 ・「山の下夜遊びランド」や「ハロウィンパーティー」といったイベントが成功し、若い世代の地域活動への参加が増加。外部地域からも訪問者があり、継続的な実施予定。 ・一部地域では、世代間交流や子どもを含む地域行事の工夫・実施が進む。 ・若い世代や住民全般の関わり合いが不足しており、顔が見える関係づくりはまだ道半ば。 ・ゴミ捨て場や公民館など、特定の場所での交流はあるものの、日常的な顔の見える関係づくりが難しい地域も多い。 ・住民の高齢化や核家族化、転出入の多い住民構成が壁となり、繋がりの形成が困難。
推進目標3:災害時、要支援者への対応や 協力体制の整備をしよう ・各町内で避難訓練を実施し、支援体制の工夫を図る。 ・要支援者名簿の整備と情報共有、避難所運営訓練を行い、実務的な対応の模索中。 ・名簿の活用や避難支援の具体策が不足。 ・津波ハザードマップの見直しや避難場所の拡充が必要。	

2【令和6年度 桃山地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021～2026>

【目指す姿】 地域全体で協働し、地域交流の活発なまちに！	
推進目標1:問題をみんなで共有し、地域で顔が見える関係づくりをしよう ・桃山プロジェクトを通じて、地域には生活に困難を抱える住民がいることが明らかとなったが、「助けて」の声の拾い方が難しい。民生委員は守秘義務があり情報提供できない。まずは情報の得られる町内から支援を始めることが有効と考えられる。 ・住宅修繕等の相談にも地域で対応することがあるが、対応に困ることもある。 ・高齢者を見守る仕組みが自治会単位でもであると良い。 ・行事運営や役員不足に悩む町内も多く、連携や負担軽減の工夫が必要。 ・少子化だが子どもに限らず、多世代で楽しめる行事や防災訓練の合同実施等、誰もが参加しやすいやり方や環境整備が求められている。	推進目標2:次世代の担い手を育てよう ・多世代交流イベントを通じて地域意識の醸成を図るとともに、若者が参加しやすい役割設定や、夜間・週末の会議開催、班会議に補助など若年層の参加促進を進めている。親子で楽しめる企画も取り入れ、自然なつながりづくりに努めているが、中高生や子育て世帯の継続参加には課題がある。 ・ひきこもりがちな若者への対応には、精神的負担や支援体制の限界があり、専門的支援も必要とされる。 ・高齢男性が参加しやすい場づくりや、運営上の役割を担ってもらうことによる参加促進も必要である。
推進目標3:地域で見守り・助け合いができる環境づくりをしよう ・自治会集会所を茶の間等で有効活用してほしいが、なかなか進まない。 ・民生委員やあゆみ会、自治会による見守り活動や移動支援も行われているが、移動支援は利用ニーズが少なく交通の便改善に向けた勉強会を実施予定。 ・「助け合い・支え合いの会」の活動は継続しているが、人手不足が課題。 ・除雪活動では中高生の参加が難しい。コミ協で除雪機購入を検討中。複数で共同購入した自治会もあり。 ・要支援者名簿はあるものの実際の支援には限界があり、隣近所の協力促進にも課題が残っている。	推進目標 4:町内の人たちが気軽に集う場所をつくろう ・集まれる場所が整えば地域活動の幅が広がる。空き施設等の活用検討、補助金の継続性が課題となっている。身近な拠点をつくりたい。 ・ラジオ体操など親子参加型の活動はつながりの場となっている。 ・横のつながりの希薄さ等から男性が地域活動に参加しづらく、参加を促すには「自分が必要とされる仕組み」が鍵。 ・町内集会所の活用が少ない。食事会やお茶会の開催が効果的ではないか。一方で、夏休みに集会所の開放をして、参加者が多い地区もある。

3【令和6年度 東山の下地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】地域の力を総動員して、全地域で見守り・生活支援活動ができる東山の下にしよう！	
推進目標1: コミ協と自治会・町内会単位で 仕組みを作ろう	推進目標2: 子どもから大人まで 顔の見える関係づくりをしよう
・ごみステーションの見守りや移動スーパーの活用が進められているが、地域活動の担い手不足が課題となっている。 ・住民の交流拠点としての茶の間の運営も継続的な支援が求められている。 若年層の地域活動への参加を促進するためのしくみづくりが必要 ・デマンドタクシーの活用、空き家管理、防犯対策の強化など、住民の安心・安全を確保するための取り組みが求められている。	・防災士の増員や女性の視点の重要性が指摘され、各町内で独自の防災対策が進められている。 ・見守り活動や地域交流の場づくりも積極的に行われ、子どもや高齢者を支える取り組みが多様化している。 ・ボランティアの高齢化や後継者不足が課題となる一方、イベントを通じた世代間交流の機会が求められている。 ・地域住民同士のつながりを強める活動が継続的に実施され、防災・福祉・教育の分野で連携を深めることが重要視されている。

4【令和6年度 下山地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021～2026>

【目指す姿】 地域住民が健康で住みやすく、あいさつが活発なまちに！	
推進目標1:自治会・町内会と民生委員・児童委員との連携を深めよう ・自治会や民生委員が協力して活動を進める重要性が指摘され、情報共有や連携強化の必要性が強調された。特に、自治会役員や民生委員が互いに顔を知り、協力し合うことが重要である。 ・守秘義務や個人情報の取り扱いに関する認識の共有が不足しており、それが情報交換の障害になっている。自治会と民生委員の間で密な連携を取るための仕組みづくりが求められた。 ・地域福祉活動の多様な取り組み(例:子育てサロンや高齢者支援活動)が紹介され、今後の課題としてボランティアの確保や支援体制の強化が挙げられた。	推進目標2:顔の見える関係づくりを目指そう ・地域での挨拶運動や見守り活動は継続的に行われていて、特に子どもとの顔の見える関係作りが効果的。民生委員や自治会、青パトなどが協力して見守り活動をしていて、子どもたちにも良い影響を与えている。 ・ふれあい給食会や世代間交流事業は、参加者が固定化していることや対象者の選定方法に不透明さがあるとの指摘があり、新規参加者の獲得やPRが課題とされた。 ・住民同士の交流を促進するため、地域のイベントやボランティア活動が重要であり、顔見知りの関係を作ることが防犯にもつながると意見が集まった。また、後継者不足が課題となっている。
推進目標3:地域の茶の間の開催、活用の見直しをしよう	
・地域の茶の間の活動は、参加者の固定化が課題。新規参加者を増やすためには、プログラム内容や開催の工夫が重要。男性でも参加しやすい内容(例:スマホ教室やコーヒー講座)を考える必要がある。 ・参加者の高齢化が進んでおり、声掛けや活動の多様化が必要。お茶の間の活動だけでは集まりにくいいため、健康体操や出前講座、歴史や映写会など他のプログラムを組み合わせることが効果的。 ・季節や時間帯を工夫し、子どもや若い世代も参加できるようにすることが大切。土日やイベント型の活動が有効とされている。地域ごとに特色を出し、メンバー固定化を防ぐためにプログラムを分けて提供する方法も有効。 ・送迎や会場の確保、リーダーの育成が重要。自治会の活動が減少し、従来の集まりが難しくなったことに対して、新たなアプローチが求められている。	

5【令和6年度 紫竹中央地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】 住んでいる人みんなが「幸せだなあ」と感じられるまちに！	
推進目標1:地域ぐるみで子どもの安全を見守っていこう	推進目標2:災害時の助け合いの基盤をつくろう
・セーフティースタッフによる見守り活動を継続中。学校区がバラバラな地区だが、適宜学校との情報交換も行っている。見守り活動は活発で地域での協力体制が強化されつつあるが、人数減少や下校時の見守り不足に課題が残る。 ・コミ協では「もちつき大会」や「防災訓練」を通じて住民同士の繋がりを深め、見守り活動を進めているが、自治会ごとの活動差がある。	・自治会ごとに世帯票や個人情報を活用し、災害時の支援体制を整備。防災会議や避難所マニュアルも配付。 ・高齢者や要支援者への訪問活動が進んでおり、地域での支え合いが強化されている。ただし、支援拒否への対応や個人情報の取り扱いに課題がある。 ・避難訓練を江南小学校で実施し、沼垂小学校区の世帯も参加。運営マニュアルやハザードマップの再確認が重要。
推進目標3:顔の見える関係づくりを進めていこう	
・子どもたちからも挨拶されるが、大人からの挨拶で不審者扱いされることもある。大人同士のつながりが薄いため、町内でのつながりができると良い。 ・地域の茶の間は新規メンバーが入りづらいが、認知症予防などの効果があり、自由な形で運営されている。 ・子育て支援座談会や交流イベントを通じて、親同士の顔合わせや勉強が促進され、地域のつながりが深まっている。	

6【令和6年度 木戸地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】 安心して暮らし続けることのできる便利で楽しいまちに！	
推進目標1: 健康寿命の延伸～体が資本、体力を落とさない！ ・だんだんダンスは紫竹会場での継続実施を決定。参加者は10名程度であり、冬期参加者減少が課題。 ・健康ボウリングは毎回15～20名が参加。回覧による参加は少ないが口コミで増加。参加者獲得のため、活動の様子を周知する等工夫できると良い。 ・健康吹き矢は支部の立ち上げ準備中。他地区からの期待の声もあり、学校との連携を進めたい。	推進目標2: 地域を支える担い手を育てよう～楽しくなければ集まらない！ ・若い世代の参加促進が課題。防災訓練後にBBQ等のイベントを開催し、地域活動を知ってもらえると良い。 ・木戸中防災訓練は中学生にも準備段階から参加してもらうことで、共助の意識が芽生えるいい機会となっている。 ・それぞれの地域活動が見えづらい。活動内容を回覧で周知し、情報が広がるようにすることが必要。 ・支え合いの活動スタッフは5人で負担が大きいため、増員と役割分担を検討していきたい。
推進目標3: 地域のつながりづくりを進める！	
・自治会・町内会長と民生委員の情報交換会を年1回開催し地域の情報共有を強化したい。若手も参加しやすいよう夜間開催も検討。 ・東新中学校やよつば学園との地域内でのふれあいが増え、学校と地域と顔の見える機会が生まれている。 ・あいさつ活動が重要視され、通学路での見守りや声掛けが行われているが、あいさつをしない子もいる。まずは大人からの積極的なあいさつが大切。	

7【令和6年度 牡丹山地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021～2026>

【目指す姿】 みんながいきいきと生活しているまち	
推進目標1: 安心して暮らせる まちづくりをしよう ・「思いやり応援隊」は地域での活動を継続(草取りや電球交換など)。 ・依頼が多いが担い手の高齢化が課題。 ・亀田郷芦沼会との連携で認知症搜索模擬訓練により、地域のつながりや助け合い精神の強化を深めている。 ・学校単位での見守り活動や防災訓練を実施することにより、地域の安心感を高めている。	推進目標2: 地域の茶の間・居場所を活用しよう ・子どもから高齢者まで利用できる地域の茶の間や子ども食堂が増えており、交流の場として機能している。 ・茶の間では健康講座等をするとう参加者が増加するが、若い世代の参加が少なく、呼びかけの工夫が必要。 ・地域の活動をもっと多くの人に知ってもらうため、周知方法の工夫や広報の強化ができると良い。
推進目標3: 地域で情報を共有しよう	
・自治会と民生委員の連携が重要。双方での情報共有の難しさ(個人情報壁)が課題。 ・災害時の対応では、自助・共助を意識した活動が求められ、自治会ごとに声掛け等に取り組んでいる。 ・各団体の活動に活かしていくための交流会が開催できると良い(例:自治会長と民生委員の情報交換会等)	

8【令和6年度 大形地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】 誰もが安心して住むことができ、多世代交流の活発なまちに！	
推進目標1:地域のつながり、顔の見える関係づくりを推進する	推進目標2:安心安全なまちづくりを進める
・各自治会で地域の茶の間や見守り活動を継続。参加者の固定化や新規参加者の呼び込み、後継者探しが課題。 ・子ども食堂は会食形式で開催。高齢者との交流が自然に生まれる。 ・青少年育成協議会が若い世代の仲間づくりに力を入れており、徐々に担い手のバトンタッチができてきている。	・交通安全や通学路の安全確保に取り組み、不審者対策や防犯カメラ設置をしている。 ・避難訓練や地域の防災対策を強化し、若い世代への参加呼びかけが必要。 ・地域内で協力して見守りや安全対策を実施し、あいさつを通じた顔の見える関係づくりを推進している。
推進目標3:支えあいのしくみづくりを推進する	
・自治会役員の交代に伴い、「支え合い」の理解促進が重要。 ・地域の茶の間参加者が固定化しているため、誰でも参加できるような改善が必要。 ・気軽な交流の場があるといい。ごみステーションにベンチ設置で憩いの場を作ることによって防犯対策にもなる。	

9【令和6年度 江南地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021～2026>

【目指す姿】安全で住みやすく、安心な暮らしのできるまちづくりを！

推進目標1：後継者と若い人を育成しよう	推進目標2：地域住民の関係づくりを強めよう
○ボランティアの継承と担い手の育成 ・仕事内容を理解してもらうことと、役割分担を進めることで負担感を無くしていく。 ・楽しさややりがいを伝え、参加者が継続できる環境をつくる。 ○役員選任と世代交代の工夫 ・年齢順での交代や一年交替制など、無理のない形で世代交代を進める。 ・副会長を複数人置くなど、多くの人が関われる仕組みを模索する。 ○ボランティア募集の強化 ・イベント時に親子向けの募集を行い、若い世代の関心を高める。 ○地域活動の継続と次世代へのつなぎ ・子ども食堂などの取り組みを通じ、良い経験が次世代に引き継がれるよう支援する。	○地域イベントへの参加促進 ・町内ごとの活動や親子参加型イベントを企画し、住民同士の交流を深める。 ○学校との連携強化 ・地域行事の情報を学校と共有し、子どもや保護者への周知を強化していく。 ・中学生の地域活動参加を促進する。 ○多様な世帯へのアプローチ ・新興住宅地の住民にも関わる機会を提供し、地域のつながりを強化していく。 ○地域活動を通じた子どもの育成 ・祭りや清掃活動を通じて、地域の文化や生活の知恵を伝える。 ○見守り活動の継続と担い手確保 ・民生委員の負担軽減を図り、地域全体で子どもを見守る体制を構築する。 ○地域づくりのヒントを活かす ・読み聞かせボランティアなどの活動から、新たな地域づくりの手がかりを探る。
推進目標3：支援のためのネットワークづくりをしよう	
○地域全体の一体感を醸成 ― 学校やコミ協と連携し、地域住民が一体感を持てるイベントを企画する。 ○困っている人への支援強化 ― NPO 等と協力し、支援が必要な人を見つけやすくする仕組みを構築していく。 ○中学生の地域活動参加促進 ― 中学校を通じて自治会長アンケートや地域情報を子どもに直接伝える。 ・草取りなどの地域活動に中学生を巻き込み、参加機会を増やす。 ・学校からの募集を通じて、活動への参加者を増やす。 ○災害時のネットワーク強化 ― 避難所運営委員会を活用し平時から地域住民が顔を合わせる機会を増やす。	

10【令和6年度 中野山地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】 安心して暮らしつつげたい美しいまち	
推進目標1: 顔の見える関係づくりを推進する ・民生委員は友愛訪問を行い、高齢者の生活支援や安否確認を行っている中で、ゴミ出しや除雪などの支援が必要な場合の対応方法に課題がある。 ・地域の見守り活動が重要視され、高齢者や子どもたちの安全を守る体制づくりが進めている。 ・高齢者や子どもたちへの支援体制の充実や、見守りボランティアの人手不足や、地域行事への参加促進が課題である。 ・今後は、新たに地域に引っ越してきた家庭とのつながりをどう構築するか、また、高齢者の安否確認をどのように支援するかが重要なテーマとなっている。	推進目標2: 非常時にも対応できる 仕組みづくりを推進する ・高齢者の実態調査が行われ、7~8割の対象者が自治会等への情報共有に同意しているが個人情報の取り扱いに対する懸念がある。災害時避難行動要支援者名簿が機能しなかった反省を踏まえ、名簿活用方法の改善が求められる。 ・中学生の地域貢献活動をマッチングする仕組みの構築が課題。地域教育コーディネーターを通じた協力の試みが行われている。民生委員や自治会長は、災害時に高齢者への声掛けや支援ができる体制づくりに努めているが、個人情報を提供しない住民との連携や支援には限界があり改善が必要。
推進目標3: 気軽に誰もが集える居場所づくりを推進する ・地域の茶の間活動が活発だが参加者が固定化し、リーダー育成や新規参加者の獲得が課題。地域の茶の間やラジオ体操後の清掃活動が行われているが、距離や時間帯が参加障壁となる場合もあり、移動支援や誘い合わせが必要。 ・フリースペースなかのやまは子ども向けには充実しているが、大人への周知が不足している。 ・空き家の活用が進まず、地域で集える場所の確保が難しい。特に中野山小学校周辺は集会場所がなく、高齢者や子ども向けの居場所づくりが求められている。地域全体で支え合い、みんなが利用できる居場所づくりが重要。	推進目標4: 美しい環境づくりを推進する ・コミ協のプランター設置活動や環境美化活動が行われ、地域に潤いを与え、住民から好評を得ている。学校との連携により、子どもと大人と一緒に活動する機会が増え、自治会役員と子どもたちのつながりも深まっている。しかし、参加者の高齢化により今後の活動における担い手不足が課題である。 ・一斉清掃や地域の緑化活動が盛況に行われ清掃活動に中学生が参加しているが、若年層の参加が少なく、今後の巻き込み方に工夫が必要。 ・地域活動には積極的な参加を促進するため、楽しさを感じてもらうことが必要。

11【令和6年度 南中野山地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】ちょっとした困りごとは地域住民同士で解決できるまちに！	
推進目標1:「ヘルプ南中野山」の活動を拡充する 1 移動支援の開始と拡充: 令和6年7月からボランティアの乗用車による移動支援(ボランティア車両)が開始され、利用者は増加傾向。特に通院利用が多く、週3回・月10回以上利用する方もいる。 2 支援の多様化: 従来の支援内容に加えて家事支援(屋内掃除・調理等)や除雪支援なども依頼があり、公的サービスでは補えない部分も担っている。 3 利用者の固定化: 依頼件数が多いが実利用人数はそれほど増えていない。 4 地域の自発的な助け合い: ヘルプ南中野山を通じた助け合いを基本に、将来的には地域住民同士での助け合いが自然にできることを目指す。	推進目標2:みんなが集まり楽しめる居場所づくりをする 1 地域の茶の間の実施: 各自治会館や飲食店など5カ所で月1回開催され、固定メンバー中心ながら一定の参加者がいる。 2 多様なプログラム: 介護サービス、手芸、ピアノやギター伴奏による歌、昔語り、スマホ教室、ビンゴゲーム、健康マージャン市政さわやかトーク便など、地域ごとに工夫した内容を実施している。 3 資金やスタッフの課題: 自治会からの補助があるが、運営資金や世話役の確保に苦労している。
推進目標3:民生委員児童委員と自治会の情報共有と連携強化 1 情報交換会は毎年7月に実施(自治会長連絡会議と併催)。南中野山地区は「1自治会1民生委員」の基本体制が整い、連携が良好である。 2 自治会との関係 (1)一部自治会では、民生委員が自治会役員になっている。 (2)自治会と連携しながら高齢者見守りを実施している。	推進目標4:防災体制を充実させる 1 防災訓練 (1)防災訓練を年2回(独自+コミ協主催)実施し、継続的な訓練を重視している自治会もある。 (2)ほとんどの自治会が情報伝達を兼ねた訓練を実施している。 2 避難所運営 (1)南中野山地区13自治会の避難所を南中野山小学校に統一した。 (2)コミ協主導で役割分担し、組織的に対応。

12【令和6年度 東中野山地区】東区地域ふれあいプラン地区別計画評価表<2021~2026>

【目指す姿】 誰もが安心して住み続けられるまちを目指して！	
推進目標1: 誰もが安心して暮らしていけるためのネットワークを充実させる ・「地域の茶の間」や「支え合い応援隊」の活動は、高齢者支援や住民間の助け合いを促進する重要な役割がある。ボランティアの参加者が少ない、負担感が強い、ボランティアの高齢化の課題がある。 ・自治会では、イベントや活動を通じて新しい住民や若年層とのつながりを深める努力をしている。 ・地域行事に対しては、世代交代や持続的な運営を目指す工夫が求められており、例えば役員の経験積みや部会による分担が行われている。 ・課題として、高齢者支援や空き家問題、人口減少が挙げられ、活動維持のためには、多世代が参加できる仕組みや支援が求められている。	推進目標2: 自治会と民生委員・児童委員との連携を強化する ・自治会と民生委員の連携が強化されており、自治会役員会議に民生委員が参加する形で協力体制が築かれている。民生委員が役員を兼ねることで、情報交換が円滑になり、地域内の問題解決が進んでいる。 ・自治会内で民生委員を認知してもらうために、総会や役員会に定期的に参加してもらい、ネームホルダーなどで識別しやすくする対策も検討予定。 ・民生委員は見守り活動しているが、呼鈴を鳴らしても応答がない場合、入院や旅行などが理由であることが多い。自治会や民生委員は、その情報を事前に共有し、適切に対応できるよう努めている。
推進目標3: 担い手の育成 ・自治会活動では役員の高齢化、担い手不足が深刻。次の世代を見つけることが重要。行事参加の際に声をかけ、顔がつながるようにしている。 ・デジタル化の進展により、LINE やメールでの情報共有が行われ、会議の効率化が図られている。一方で自治会への関心が薄れ、役員をやりたくないという声も多く、参加を促すためには柔軟なアプローチが必要。若手を巻き込み、行事を通じて楽しさを感じてもらうことが必要。 ・自治会活動を行う際は、無理に全員参加を求めず、できる範囲での協力を呼び掛ける。	